

## 「大阪セレクション」の選定に寄せて

大阪市生きた建築ミュージアム推進有識者会議

座長 橋爪 紳也

大阪府特別顧問／大阪市特別顧問

大阪府立大学 21 世紀科学研究機構特別教授

私たちが暮らす大阪の都心には、歴史を礎とした大阪らしい魅力的な建物群が集積しています。

「大大阪」と呼ばれた戦前の繁栄を今日に伝える華やかなビルディングがあります。戦災の廃墟から復興するなかで、独自の工夫やデザイン性を加えたオフィスビルや集合住宅があります。また高度経済成長の足跡を示す個性的な商業施設もあります。いずれも大阪という都市の魅力を語るうえで大切な、社会が共有している文化的な資産であると言って良いでしょう。

もちろん専門家はその意義を熟知していますが、一般の市民の皆さんは、良い建築が産み出す価値や都市景観への貢献度を、まだ十分に知る場がありません。私たちは「ある時代の歴史・文化、市民の暮らしぶりといった都市の営みの証であり、様々な形で変化・発展しながら、今も生き生きとその魅力を物語る建築物等」を、「生きた建築」という新しい概念で定義のうえ、その価値を再評価し、できるだけひろく知らしめるべきだと考えました。

私たちは、御堂筋を南北の軸として大阪駅前から中之島・船場・ミナミ界限などを含む都心を、「生きた建築」が存在するフィールド・ミュージアムと捉えました。そのうえで2013年度・2014年度の2ヶ年をかけて、エリア内に存在する多くの民間建築を精査、「時代を超えた塔のまち・大阪」「都市の社交空間」「大阪の顔」「水辺に向かって立つ建築」「心意気あふれる多彩な民間建築」「先端をゆく商業建築」「戦後大阪の都市改造」「大阪の都市居住」といったカテゴリーを想定しつつ、大阪を代表する魅力的な建物を選抜いたしました。さらに議論を重ねて候補の絞りこみを行ない、最終的に所有者の了解をいただいたうえで、50件の建物を「大阪セレクション」として選定させていただきました。

もちろん「大阪セレクション」に選ばれた作品のほかにも、価値ある建物は多数あります。残念ながら類似の建物が複数あり相対的な評価のうえで選から漏らさざるを得なかった建物、あるいは候補に挙げましたが、関係者の協力が得られなかった物件もありました。なお公共建築、さらには民間の建物であっても重要文化財に指定されている建物は、選定の対象に含んでおりません。

2014年の秋には、2013年に行った実証実験の成果を踏まえつつ、「大阪セレクション」を中心に、多数の建築を特別に公開していただくイベントを開催しました。

都市は遺物を収める宝物館ではありません。過去から現代、そして未来へと、たえず創作を重ねることで産み出される「LIVING HERITAGE」、すなわち「生きた資産」を、これからも収め続けるミュージアムであると考えます。市民の皆さん、とりわけ多くの子どもたちに、前の世代から受けついで建築群の魅力に触れていただき、「生きた建築ミュージアム」を楽しんでいただければ幸いです。

最後に、選定された各建物の所有者の皆様、私たちの志に賛同をいただきイベントへの協力を快諾いただいた関係各位に、心からの謝意を表したいと存じます。